

豚ぶん35%肥料発売

全農 ぐんま 野菜残さ餌に資源循環



全農ぐんまが新発売した「プースター266」

【ぐんま】JA全農ぐんまは6日、混合堆肥複合肥料「プースター266」の販売を始めた。県産の野菜の残さなどを餌にした豚ぶん堆肥を約35%使用。地域資源を循環させて、持続可能な農業の実現とともに国際情勢に左右されない安定的な供給を目指す。

豚ぶんは、特定疾病を排除した健康な豚（SPF豚）を出荷する養豚会社「利根沼田ドリームファーム」（沼田市）のものを使う。同社では、前橋市にある全農ぐんまの青果物一次加工センターから排出された県産を中心とする国産キャベツの芯などを餌として豚に与えている。

全農ぐんまによる

と、肥料の保証成分は窒素12%、リン酸6%、カリ6%。粒状ペレットに加工して、ブロードキャスターでも散布できる。堆肥と化学肥料を合わせたことで緩効性を持つ。有機質肥料づくりで実績がある東京都の朝日アグリアが製造する。

全農ぐんまは、生産者の高齢化や肥料価格高騰などを受けて肥料の開発を検討。農水省が「みどりの食料システム戦略」で化学肥料の使用量の削減を掲げたこともあり、安定的に調達できる県内の豚ぶん堆肥を利用することを決めた。

全農ぐんま肥料農業課は「消費者の環境意識は年々高まっている。生産者に『地域資源を循環利用する環境

に優しい肥料で作った野菜』といった新しい付加価値を提供したい」としている。耕畜連携の促進にも貢献したい考えだ。